

調剤薬局における処方薬剤および健康食品の併用に関する報告

～併用状況の調査および適正使用の促進～

○ 眞々田和矢、遠藤寛之、渡辺淳志、済間誉浩、小田麻祐子、
立川靖之、尾崎覚、三宅宏昭
株式会社 クリエイトエス・ディー

【目的】我が国では1991年に特定保健用食品が生まれ、また2008年には医療保険者に対して特定健診が義務化された。高齢化の進行に伴い美容健康志向が高まる中で、処方薬剤と健康食品の併用は今後増加していくと予想されるが、医師に健康食品の服用を伝えていない患者において処方薬剤の治療効果や安全性に対する影響が懸念される。そこで、調剤薬局における処方薬剤と健康食品の併用による安全性を確保すべく、これらの併用状況について調査した。さらに、その結果から処方薬剤と健康食品の注意すべき相互作用および健康食品の適正使用について検討した。

【方法】当社の調剤薬局22店舗において、患者への服薬指導時に以下の項目を聴取した。

①年齢 ②性別 ③診療科 ④健康食品の摂取有無とその品目

上記の項目より全対象中、年代別、男女別および受診科別における併用率について分析した。その結果から、処方薬剤と健康食品の相互作用早見表を作成した。

【結果】対象患者1,234名中、併用患者は312名で25%、その男女比は1:2であった。女性においては高齢になるほど併用率が上昇する傾向にあり、性別に関係なく60歳代が最も高い数値を示した。品目別での使用者数は、ビタミンC、総合ビタミン剤、グルコサミンの順に多かった。診療科別の併用率は、整形外科と産婦人科が49%と高く、整形外科ではグルコサミン、そして産婦人科では葉酸および鉄と診療科に関連深い健康食品の使用が一部で確認された。今回の調査結果を踏まえて、これらの健康食品と処方薬剤において特に注意が必要な相互作用について早見表にまとめた。

【考察】処方薬剤と健康食品の併用率が高齢者と女性で高い傾向が認められた。この原因として、前者では老化現象、後者では美容健康に対する意識の高さが関与していると考えられる。また、整形外科におけるグルコサミン併用のように、治療と同じ目的で健康食品を服用されるケースも少なくない。この場合、相互作用や医師による使用の把握について注意し、治療効果への影響を考慮していかなければならない。今後、当社調剤薬局においては健康食品に関する情報収集の継続および早見表の情報更新を行い、処方薬剤と健康食品の併用チェック機能を強化することで健康食品の適正使用を進めると共に、医師による薬物療法をより効果的に支援するための役割を担っていく必要があると考えている。